キゴ山ふれあい研修センターでのゼミナール活動　～心に響く学び～

団体名●辰島ゼミナール／プレゼミ／代表者名●辰島裕美（女子短期大学部経営実務科・教授）

はじめに（背景・目的・目標）

地域の教育研修施設である金沢市キゴ山ふれあい研修センター（以下，センター）での5年目の活動として，本稿では，ゼミナールの成果を中心に述べる。

本年の学生が参加した活動は昨年と同様の行事であったが，ゼミナールでは主体性が発揮された。現場でお客様と接して実際に感じたことや，サービスを提供してもたらされた会話と経験は，教室では得がたいものである。一人一人獲得したものは多いが，学生のコメントからその一部を紹介する。

活動内容

- 学校天体観望会・in 夕日寺（5月）5名
- 星見の日（5月～10月）4回18名
- キゴ山ネイチャーワールド（春）（5月）7名
- キゴ山ネイチャーワールド（秋）（9月）6名
- プラネタリウム聞き比べ（10月）90名
- よちよちプラネタリウム（3月）4回16名

活動の様子

- キゴ山ネイチャーワールド（春）：中心となった学生は，積極的に自分で動くことと，周囲に協力を求めることもできていた。リーダーの元全学生とのチームワークも成功のカギであった。
- 星見の日：ゼミ生を4グループに分け，協力してナレーションのシナリオを作り，語りとコンソール操作担当と全体統括の3人で星空解説を実施した。

星見の日：キゴ山プラネタリウム

成果、結果の考察

- ネイチャーワールドのリーダーのコメントから

公務員に内定したこの学生は，居住する自治体のフロント職員として，地域の人に接することになる。「実際に私は短大でイベント企画に携わり，参加者と直接関わる中で，相手の立場に寄り添うことの大切さを学んだ。＜略＞自分の行動が誰かの満足や安心につながることを実感することができた。」とある。イベントのアンケートで，高評価を得たことは，働く意欲と自信につながると考えられる。

- 星見の日のコンソール担当のコメントから

「感謝の気持ちを言うことがとても大切なことだということを改めて感じることができた。今までは感謝の気持ちを言葉にすることを意識していなかった。だが、感謝の気持ちを言葉にして伝えることで人と人とのコミュニケーションをとるための大切な手段だということを知った。」という学生は，自分が感謝の言葉をもらうことで，自分の行動の価値を知れた。これまでは，サービスを受ける側であったが，このささやかな気づきは，人のために動く側として重要なコミュニケーションのポイントであろう。

- 星見の日の星空解説のコメントから

目立たないこの学生は，意欲的な他のゼミ生に圧倒されていたが，自分からナレーターを希望し，結果，アドリブで臨機応変に対応までできっ，お客様からほめられた。「自分自身への自信を少し持てるようになる機会になったので、諦めが早い私を奮い立たす一歩になった。」とあるように，みんなで練習を重ね，最終的にお客様に喜んでもらえた経験は，やはり心地よく，成長を実感できた一コマだった。

現実のお客様の感謝や，職員からの称賛と労いの言葉は，学生にとって，何よりの成長の機会となる。教室内では得難いものを享受でき，感謝したい。